

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 40

2011年4月19日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。



□ I J R C 創 立 2 0 周 年 特 別 寄 稿
—静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC) は、
平成23年4月に創立20周年を迎えます—

センターは、浜松の都田テクノポリス内に拠点を置いた創立当初から、国立大学法人化と産学連携活動の本格化を経て現在に至るまで、静岡大学と地域社会とを繋ぐ窓口として活動し、共同研究、大学発ベンチャー支援、知財支援、技術移転の実績をあげてきました。

そして今、これからの産学連携は“研究が社会に出る直前の稲刈り段階にとどまらない研究の種まき段階からの支援”を行って、静岡大学のブランド力に繋げる活動にしたいと考えています。ここ数年行ってきた静大産学連携の評価分析から、課題を踏まえ強みを活かしつつ理想の形に向けた取り組みも少しずつ始めています。

20周年を機に一段と飛躍をめざすセンターに、これからもご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(記：6代目センター長 木村雅和)

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「PCTセミナー（静岡）」を開催します
2. 静岡大学IJRC・知的財産本部発行の各種冊子のご案内

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 「PCTセミナー（静岡）」を開催します
～PCT（特許協力条約）制度に関するトピックス～

セミナーでは、PCT制度の概要から最近のPCT出願の傾向、WIPOのホームページを利用した国際出願検索の実演を行います。PCTを利用する際の不明な点、お困りになっている点等について参加者との質疑応答もありますので、ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

日時 2011年5月17日（火）13:30～15:30
会場 静岡市産学交流センター（B-nest）7階大会議室
主催 静岡大学、静岡TTO、大学技術移転協議会
講師 WIPO法務部カウンセラー 塩見篤史氏
定員 50名
参加費 無料
詳細/申込 <http://stto.jp/>
問合先 静岡技術移転合同会社（静岡TTO）
TEL 053-478-1708 E-mail ip-leaf@stto.jp

-
2. 静岡大学IJRC・知的財産本部発行の各種冊子のご案内

- 1) 『静岡大学 産学連携研究シーズ集 2011』

2011.3.発行 B5版 412頁

静岡大学の研究テーマを6つの分野（ものづくり技術/電子情報通信/環境・エネルギー/材料・ナノテク/バイオ・ライフサイエンス/社会連携）に分け産業応用を中心に紹介するシーズ集です。

2) 『産学官連携活動の効果と評価に関するアンケート調査報告書』

2011.3.発行 A4版 75頁

静岡大学の産学官連携活動である「技術相談、共同研究、受託研究、大学発ベンチャー企業、知的財産権の活用（出願、権利取得、実施等）」において、携った産・学双方の皆様にとってどの程度満足感が得られる連携活動であったか、また静岡大学の「知」が経済効果としてどの位価値創出の可能性を秘めているか、の2点について効果と評価の観点から調査しました。

※送付ご希望の方は、下記まで希望冊数と送付先をご連絡ください。

問合せ先 静岡大学知的財産本部 産学連携広報担当
E-mail sangakukoho5@ocjr.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -25- 》

若手グローバル研究リーダー育成拠点 臼杵深 特任助教

微細化・高集積化の進んだ半導体製造業界では、歩留まりを上げるための欠陥検査技術が重要視される。広い観察視野（スループット）と高解像力（分解能）を持つ検査技術が期待されるが、これらはトレードオフ。従来方式の光学式検査は回折限界により $0.5\mu\text{m}$ 以下の欠陥検出が困難であり、高解像力を持つ電子ビーム式検査は測定スピードが遅く大径ウエハの検査には適していない。

臼杵先生の研究では、光学式のスループットを持ち合わせたまま従来の光学式よりも高い解像力を有する超解像光学式検査方法を提案している。「空間強度分布変調照明による高解像イメージング」技術は、変調照明を空間的にシフトさせて得られる複数画像から画像再構成アルゴリズムを構築し、シミュレーションおよび実験結果から、従来の回折限界を超えた高解像イメージングが実現可能なことを示している。

【研究分野】光計測

【研究キーワード】知的精密計測、レーザー応用計測、超解像計測、三次元計測、半導体欠陥検査

（記：産学官連携コーディネーター 齊藤久男）

《 みんなのコラム -39- 》

静岡大学電子工学研究所は、画像技術の世界的中核研究所（COE: center of excellence）となるべく研究教育活動を推進しています。

幸い、21世紀COE（ナノビジョンサイエンスの拠点創成）や特別教育研究経費（異分野技術の融合による革新的画像技術の創成事業）など、光・画像の基礎学術の研究開発に関する予算を頂き、着実に拠点化を進めることができています。

しかし、画像技術は、基礎研究だけでは不十分で、最終的には産業界で使って頂くようにするのが必要です。産学連携を通して、基礎と実用の懸け橋になってくれているのが、浜松オプトロニクスクラスター事業です。現在第2期ですが、1期2期を通して研究所のメンバーが中核的な役割を果たしています。このような中から、CMOSイメージセンサやエネルギー弁別X線イメージセンサ等の実用化が実現しました。

また、研究所は大学発ベンチャーによる企業化にも積極的で、現在ベ

ンチャー3社の役員等を研究所の所員が勤めています。研究所の原点であるテレビジョンの研究も大学（浜松高等工業）の基礎研究から産学連携へと発展し、実用化されました。

電子工学研究所は、基礎学術と産学連携のいずれの拠点でもありたいと考えています。（記：電子工学研究所長 三村秀典）

《 編集後記 》

今春、静岡大学入学者全員に配布された『学生案内』に、新たに「知的財産の心得」というページを設けました。

「新しい研究成果や発明を生み出すことは、人の考えたことを理解すること、つまり“学ぶ”ということの本質に繋がります。社会に出てからも、自分の考えた新しいアイデアを自分の発明だと自信を持って言えるようになるために、在学中から知的財産の考え方を意識することは非常に重要です。」（本文より抜粋）

「学生の可能性も守る」知的財産本部、そしてイノベーション共同研究センターでありたいと思います。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp までお願いします。（↑送付の際は○欄に@を入れてください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）

編集：原典子

編集責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

Copyright(c)2008-2011 Innovation and Joint Research Center, Shizuoka University. All rights reserved